

短歌創作の実際

【老いゆく時を生きて・続々】

講座内容

人間が生きてうたう歌でありたい。たとえ拙くとも、生きてかがやく歌を求めたいと思います。そのため基礎は、良い歌を十分に読み味わうこと。本講座では、テーマ別に秀歌名歌を読み味わい、語彙、語法を学びつつ、実作に生かしていきます。今回は、前回・前々回に引き続き、老いゆく時を生きて、先人はどんな歌を作ったのか、その詩の深みを味わいつつ、実作の参考にしてみましょう。希望者は毎回実作レポートや鑑賞文を提出することができます。

期 間	5月13日～7月8日	受講料	6,000円
曜 日	月曜日	定 員	20名
時 間	13:30～15:00	会 場	横浜・関内キャンパス
回 数	全3回	持ち物	筆記用具、辞書、作歌ノート、原稿用紙
教 材	講師が毎回レジュメやプリントを用意します。		

講座スケジュール

回数	日 程	内 容
1	5月13日(月)	老いゆく時を生きて・続々① 宮柊二の老いの歌を味わいましょう。実作ワンポイント
2	6月10日(月)	老いゆく時を生きて・続々② 斎藤史の老いの歌を味わいましょう。実作ワンポイント
3	7月 8日(月)	老いゆく時を生きて・続々③ 玉城徹の老いの歌を味わいましょう。実作ワンポイント

講師紹介



阿木津 英(あきつ えい)

現代歌人協会会員 日本文藝家協会会員

一九七四年作歌を始める。第二波フェミニズム興隆の時代を共に歩いてきた。「産むならば世界を産めよもの芽の湧き立つ森のさみどりのなか」(第一歌集『紫木蓮まで・風舌』)。以後、日本語をもってつくる歌という韻文形式の森に分け入って久しい。歌集『天の鴉片』『黄鳥』ほか。評論集『二十一世紀短歌と女の歌』『アララギの釋迦空』ほか。